

様式2 輸出事業計画

※申請者名：JA食肉かごしま輸出コンソーシアム、品目：牛肉

1. 輸出における現状と課題

・現状

①海外市場では日本産和牛の需要は「高級外食向け、ロイン系部位」に限られていたが、コロナ禍巣ごもり需要の拡大を踏まえ、小売り向けに多様な部位の流通が進みつつある。

②この好機を捉え、肩ロース等（冷凍品）の輸出を推進し、輸出量の拡大を見込む。

・課題

①動物福祉の観点から頭絡使用の普及が必要であるが、鼻環使用が主要であり、飼養者の高齢化に伴い、過重労働、安全性が危惧される。

②輸出計画申請時の事務手続きが煩雑である。和牛の性質上、格付により評価が異なるためと畜前に申請した枝肉が必ずしも輸出されることにならないなど、運用上で課題となっている。また国によって生体搬入、枝肉補完、段ボール、ラベル、各種検査の増加と輸出を拡大するためのハードルが多い。

③取引拡大要請に伴い、賞味期限の延長を求められている。

2. 輸出事業計画の取組内容

・課題解決に向けた取組

①頭絡使用における課題抽出をし、安全性を確認しつつ、国の補助事業等を活用し普及と定着を目指す。

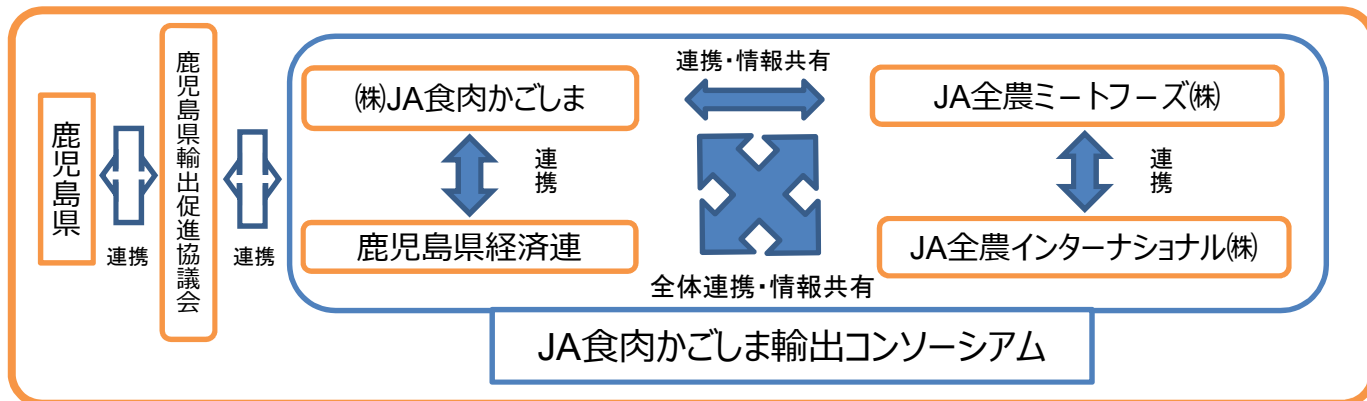
②輸出計画申請時の簡素化、統一化依頼。また、各国への資材対応については各協議会と連携しながら、国（厚労省）へ働きかける。

③賞味期限の延長については、保存試験を実施していく。

・輸出促進について

①輸出コンソーシアムの販促費を活用し、新規顧客の開拓、ロイン系部位以外の新規取扱を提案していく。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

				(単位：円)
香港	R2年実績	168,989,455	R5年目標	270,000,000
台湾	R2年実績	189,462,755	R5年目標	345,000,000
米国	R2年実績	644,720,719	R5年目標	925,000,000
E U	R2年実績	0	R5年目標	62,000,000
合 計		1,003,172,929		1,602,000,000